

2 課題研究を支える教科指導

2. 1 Learning To Become a Monkey Evolution of a Primatologist (生物分野)

(1) 研究開発の課題 (研究概要)

SSHの講演会では、研究室の中で行うミクロな研究内容の講演が多い。本講演は、マクロな分野の中でも生徒が想像しやすいテーマ(ニホンザルやチンパンジーの学習行動)を選び、京都大学霊長類研究所マイケル・ハフマン准教授に講演を依頼して、フィールドワークによる研究の面白さ及びその重要性を紹介していただいた。また、講演は英語を主体としたものとし、英語による講演を聞く機会を与える。

(2) 研究開発の経緯

動物の行動を授業で扱ったあと、理解や興味を深めるために京都大学霊長類研究所のマイケル・ハフマン准教授に講師を依頼した。

(3) 研究開発の内容

ア 仮説 (ねらい、目標)

本事業は科学への関心や論理性、英語コミュニケーション力などの「真理探究力」や「国際性」を促すことができる。

イ 研究の内容・方法

該当教科 SSH 生物特論

対象生徒 普通科 3年理系生物選択者

日時場所 5月21日(金) 本校 生物講義室 (Zoom を使用して実施)

実施内容

講演 演題 「Learning To Become a Monkey Evolution of a Primatologist」

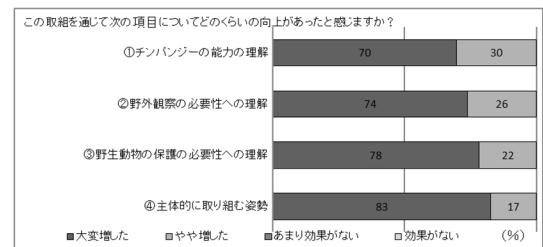
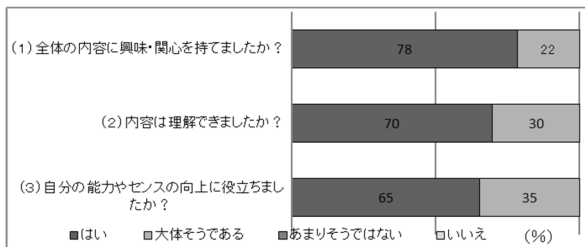
講師 京都大学 霊長類研究所 准教授 マイケル・ハフマン 先生

内容 霊長類の行動研究から明らかになったチンパンジーの薬草の利用と、そこから発見された様々な薬についての説明。ハフマン先生の最新の研究結果の紹介。



講演の様子

ウ 検証 (成果と反省)



生徒の感想より

- ・ハフマン先生の夢を追い続けたり、やりたいと思ったら違う国にも飛び込んでいける行動力に感動した。また、今回の講演で研究の進め方を知ったり、動物がどのように環境に適応していくのか理解を深めることが出来て良かった。自分もハフマン先生のように熱意を持って取り組むことを見つけていけたら良いなと思う。
- ・私たちの課題研究でも、たくさんのデータを取って比較する必要があるため、より簡単な実験方法を思いつき、それをどんどん改良していくことで、ハフマン先生に研究のような、分かりやすいデータが得られるようになってほしいと思った。

アンケート結果や感想から、興味・関心が高まったことがわかる。ほとんどの内容を日本語も交えながら英語で丁寧に話していただいたため、生徒も内容が理解できていた。研究室での実験だけでなく、フィールドワークから新薬が発見されることに驚いた生徒が多かった。海外での活動に意識が向いた生徒がいたことから、今回の英語での講演会は生徒の今後の進路や将来の夢に大きな影響があったといえる。